

株式会社ダイナック

(東証2部 証券コード 2675)

2011年9月期 決算説明会

2011年11月11日

The logo for DYNAC, featuring the word "DYNAC" in a bold, red, sans-serif font. The letter "D" is stylized with a white arrow-like shape pointing to the right, integrated into its left vertical stroke.

1 2011年9月期 業績報告

2 2012年12月期 業績の見通し

3 2012年12月期 主要活動

4 中期経営方針 (2012年～2015年)

(百万円、%)

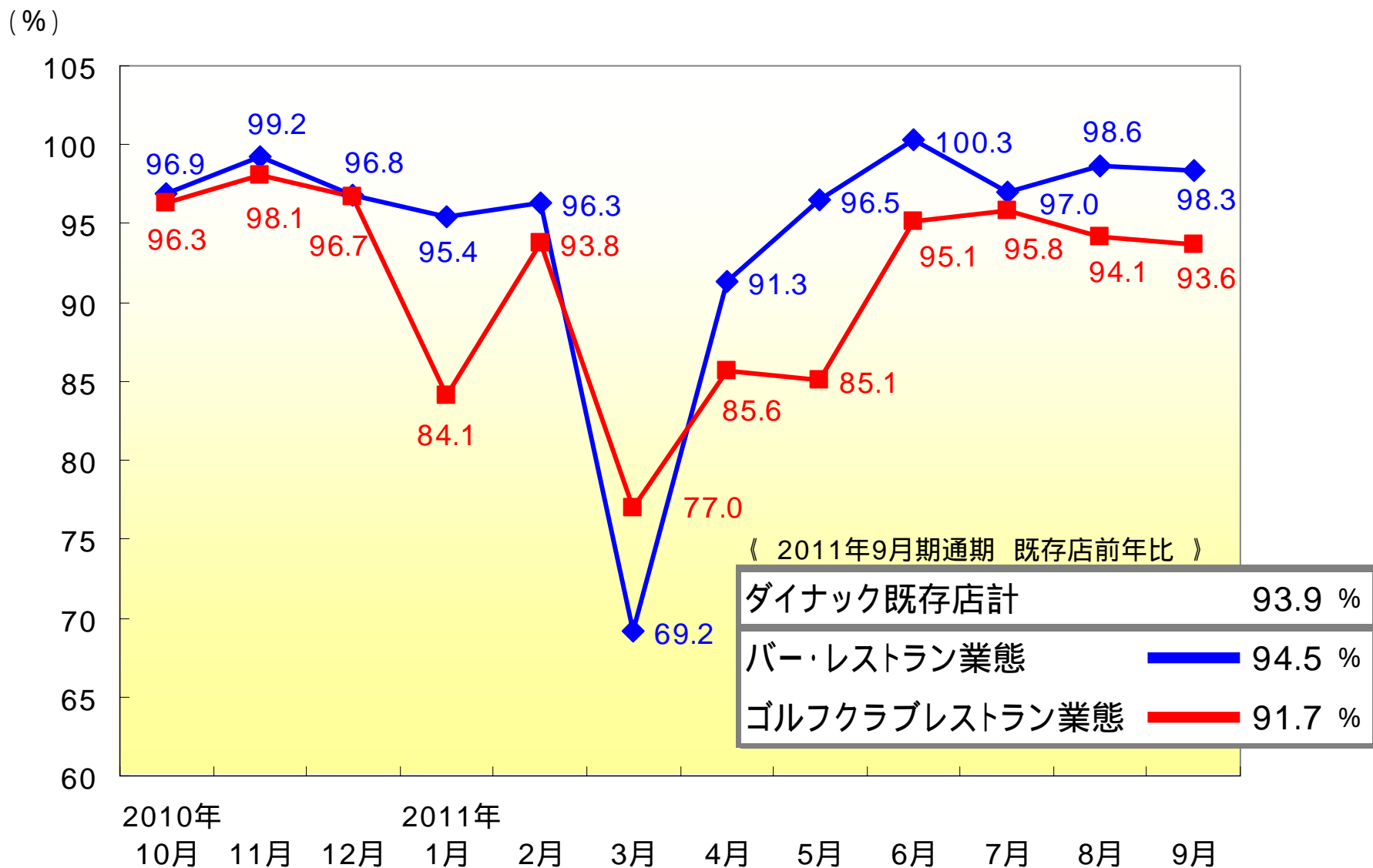
	'10年9月期	'11年9月期	前期比	増減
売上高	34,811	32,672	93.9	2,138
営業利益	617	147	23.9	470
経常利益	543	89	16.4	454
当期純利益	139	594	—	734

- 資産除去債務会計基準適用に伴う影響額： 450百万円
- 震災による災害損失： 66百万円

(百万円、%)

	'11年9月期	構成比	前期比	増減
レストラン・バー事業	29,757	91.1	93.6	2,034
ケータリング事業	759	2.3	97.0	24
その他の事業	2,155	6.6	96.4	81
合計	32,672	100.0	93.9	2,138

既存店売上高前年比推移



既存店業態別 売上前年比

		(%)		
(店数)		上期	下期	通期
217	既存店計	92.9	94.9	93.9
70	4業態計	92.7	98.9	95.7
15	響・燦	93.9	97.6	95.7
25	鳥どり	91.8	100.6	96.1
18	パパミラノ	92.5	97.8	95.0
12	R & C	91.0	101.1	96.1
18	咲くら	87.5	94.0	90.6
9	八かく庵	92.4	93.9	93.1
58	その他BR業態	93.1	96.4	94.6
56	ゴルフ	92.0	91.4	91.7
6	パーティー/会館/サービスエリア等	98.9	89.0	93.8

'11年9月期出店状況 (新規出店11店)

- '10年10月 TAPAS&BAR マルデボッカ 大阪マルビル店
レジーナの森 内レストラン
- '10年11月 RCタバーン 丸の内センタービル店
- '10年12月 イタリアンバー&トラットリア 渋谷アチエーゾ
- '11年2月 八かく庵 大阪ステーションシティサウスゲートビルディング店
- '11年3月 グリル&バーダイニング 燦 大丸梅田店
森香るBAR 1973
- '11年5月 大和肉鶏・鉄板焼 縁鶏 ルクア大阪店
厚木国際カントリー倶楽部レストラン
- '11年6月 パパミラノ グランデュオ立川店
- '11年8月 ラ・ブーシェリー・エ・ヴァン 肉屋のワイン食堂

肉屋のワイン食堂 La Boucherie et Vin



商品コンセプトの先鋭化

- ・「肉」にフォーカス
- ・目玉は、量り売りステーキ



大和肉鶏と 鉄板焼き ENISHI-DORI 縁鳥

食材へのこだわり

- ・近郊のこだわり食材
- ・健康で美味しい

森香るBAR 1973



JR上野駅構内

(店)

	期首 店舗数	出店	退店	期末 店舗数	増減
4業態	76	3	2	77	1
ゴルフ業態	64	1	2	63	1
その他業態	107	7	7	107	0
全社計	247	11	11	247	0

4業態：「響・燦」「鳥どり」「ハハミラノ」「R & C」



売上前比 142%



売上前比 114%
(新宿店)



売上前比 116%



売上前比 169%

	業態変更前	業態変更後	
1	卵乃家 横浜店	湘南の魚とワインの店 ヒラツカ	2010年11月
2	鳥どり 御茶ノ水店	海鮮酒場 魚盛	2010年11月
3	鳥どり 新宿三丁目店	鳥どり総本家	2010年10月
4	膳丸 新宿店	畑の厨 膳丸	2010年11月
5	膳丸 大宮店	畑の厨 膳丸	2011年6月
6	膳丸 大手町店	海の厨 膳丸	2010年10月
7	膳丸 八重洲店	海の厨 膳丸	2011年7月
8	パピラノ ヒルトン店	イタリアンバー&トラットリア フィアマロッサ	2011年3月



売上前比 130%

売上前比は、業態変更後6ヶ月後の単月数字

'11年9月期 損益計算書

(百万円、%)

	2010年9月期		2011年9月期		前期比	増減
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	34,811	100.0	32,673	100.0	93.9	(2,138)
売上原価	30,918	88.8	29,258	89.5	94.6	1,659
売上総利益	3,893	11.2	3,415	10.5	87.7	(479)
販売管理費	3,276	9.4	3,267	10.0	99.7	9
営業利益	617	1.8	147	0.5	23.9	(470)
営業外収支	74	0.2	58	0.2	78.2	16
経常利益	543	1.6	89	0.3	16.4	(454)
特別損益	248	0.7	688	2.1	277.6	(440)
税引前当期純利益	296	0.8	598	-	-	(894)
法人税等	156	0.4	4	-	-	160
当期純利益	140	0.4	594	-	-	(734)

'11年9月末 貸借対照表概要



(百万円)

	'10.9月末	'11.9月末	増減		'10.9月末	'11.9月末	増減
現金・預金	193	227	33	買掛金	1,548	1,533	15
売掛金	1,643	1,429	214	短期借入金	3,960	3,030	930
たな卸資産	209	199	10	未払費用	1,478	1,452	26
その他	634	836	202	未払税金	228	228	0
貸倒引当金	21	14	7	その他	501	520	19
流動資産	2,658	2,676	18	流動負債	7,716	6,763	952
有形固定資産	5,135	5,178	42	長期借入金	2,400	3,000	600
無形固定資産	70	67	3	退職給付引当金	1,367	1,101	265
敷金保証金	6,006	5,909	97	役員退職引当金	69	75	7
その他	2,002	1,541	462	その他	91	834	742
貸倒引当金	451	449	2	固定負債	3,927	5,010	1,083
投資その他の資産	7,558	7,001	557	負債計	11,642	11,773	131
固定資産	12,763	12,246	517	純資産計	3,779	3,149	630
資産計	15,421	14,922	499	負債・純資産計	15,421	14,922	499

(百万円)

	'10年9月期	'11年9月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,353	1,050
投資活動によるキャッシュ・フロー	364	651
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,745	365
現金及び現金同等物の増減額	27	33
現金及び現金同等物の期首残高	221	193
現金及び現金同等物の期末残高	193	226

1 2011年9月期 業績報告

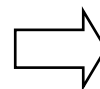
2 2012年12月期 業績の見通し

3 2012年12月期 主要活動

4 中期経営方針 (2012年～2015年)

決算期変更の内容

現在：毎年 9月30日



変更後：毎年12月31日

- ✓ 決算期変更の経過期間となる第68期事業年度は、平成23年10月1日から平成23年12月31日までの3ヶ月決算とする予定です。

変更理由

当社の事業年度は毎年10月1日から翌年9月30日までとなっていますが、

- 当社の親会社であるサントリーホールディングス株式会社の事業年度が毎年1月1日から12月31日までであること
- 当社を含むサントリーグループとして効率的な業務執行を行う必要性がますます高まっていること
- 当該親会社においてIFRS（国際財務報告基準）への対応を検討していること

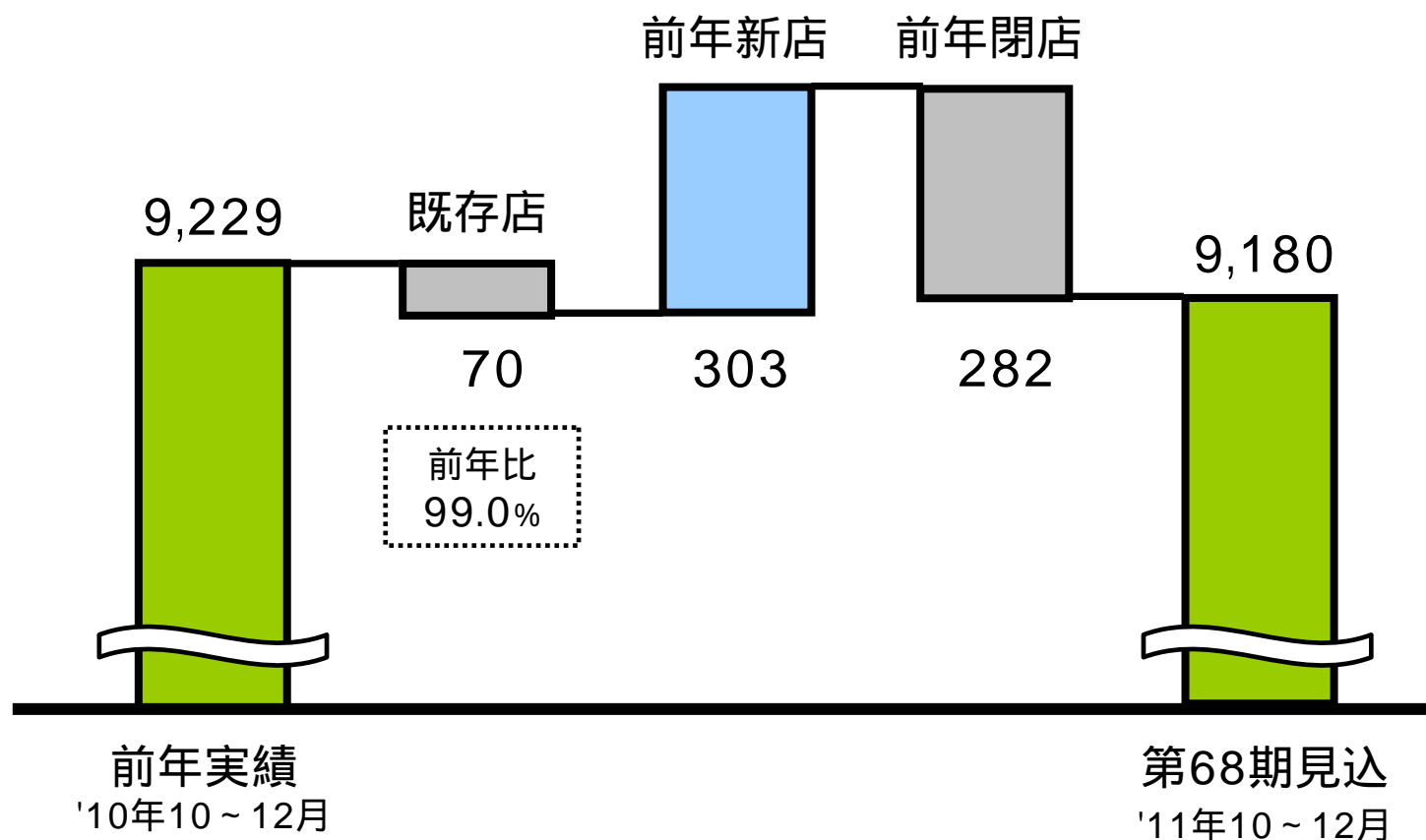
などを鑑みまして、同グループとして決算期を統一するため、当社の事業年度を毎年1月1日から12月31日までに変更を行うものであります。

(百万円、%)

	前年 '10年10～12月	第68期 '11年10～12月	前年比	増 減
売上高	9,229	9,180	99.5	49
営業利益	326	355	108.9	29
経常利益	309	340	110.1	31
当期純利益	271	100	—	371

(百万円、%)

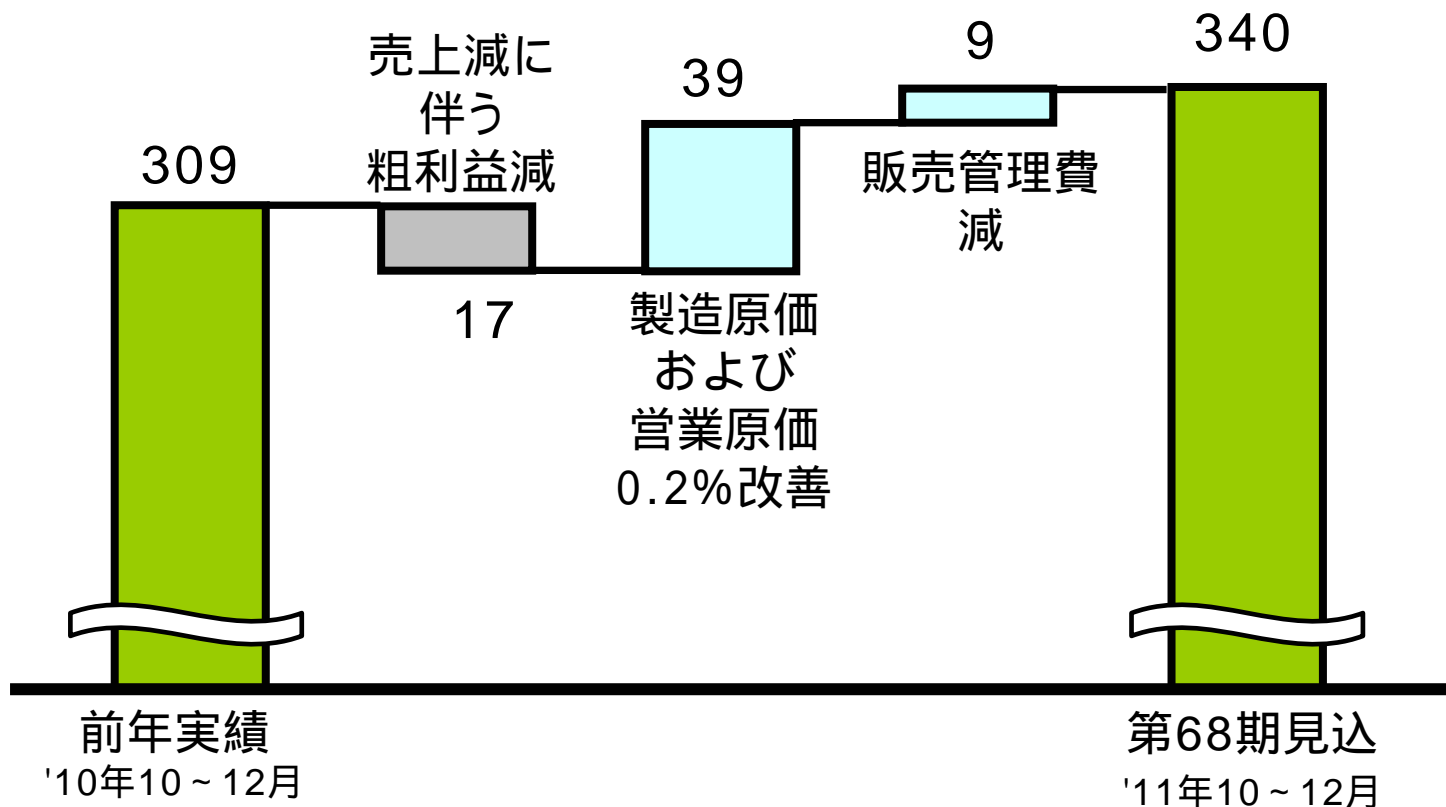
	前年 '10年10~12月	第68期見込 '11年10~12月	増 減	前年比
売上高	9,229	9,180	49	99.5



経常利益 増減

(百万円)

	前年 '10年10～12月	第68期見込 '11年10～12月	増 減
経常利益	309	340	31



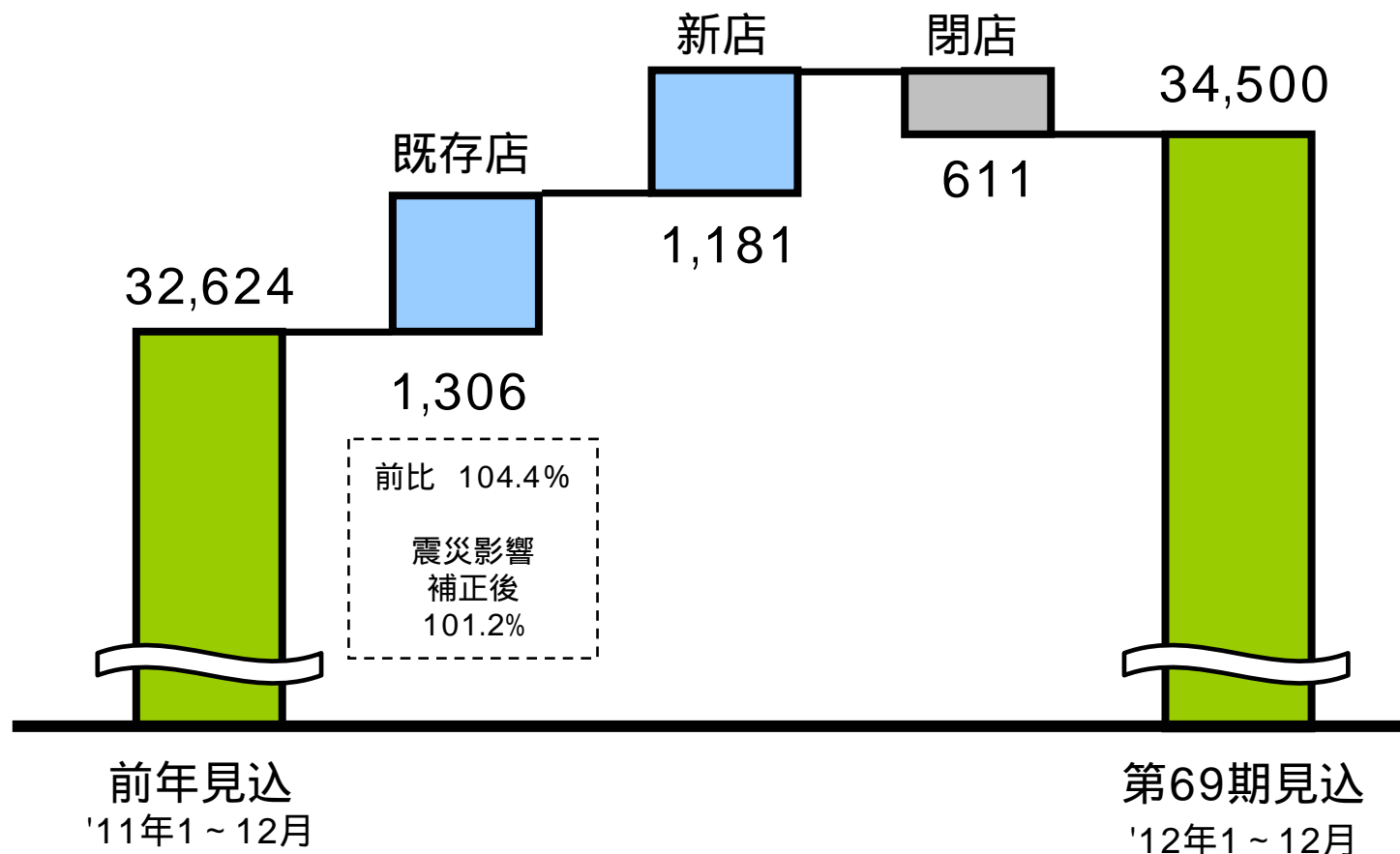
	第63期 '07年9月	第64期 08年9月	第65期 09年9月	第66期 '10年9月	第67期 '11年9月	第68期 '11年12月
経常利益 (百万円)	1,354	697	270	543	89	(予想) 340
当期利益 (百万円)	300	111	848	139	594	(予想) 100
1株当たり 配当	15円	15円	10円	10円	(予定) 5円	(予定) 2.5円
配当性向 (%)	35.2	94.3	—	50.3	—	17.6

(百万円、%)

	前年見通し '11年1～12月	第69期 '12年1～12月	前年比	増 減
売上高	32,654	34,500	105.8	1,876
営業利益	176	860	487.7	684
経常利益	120	800	664.6	680
当期純利益	223	280	—	503

(百万円、%)

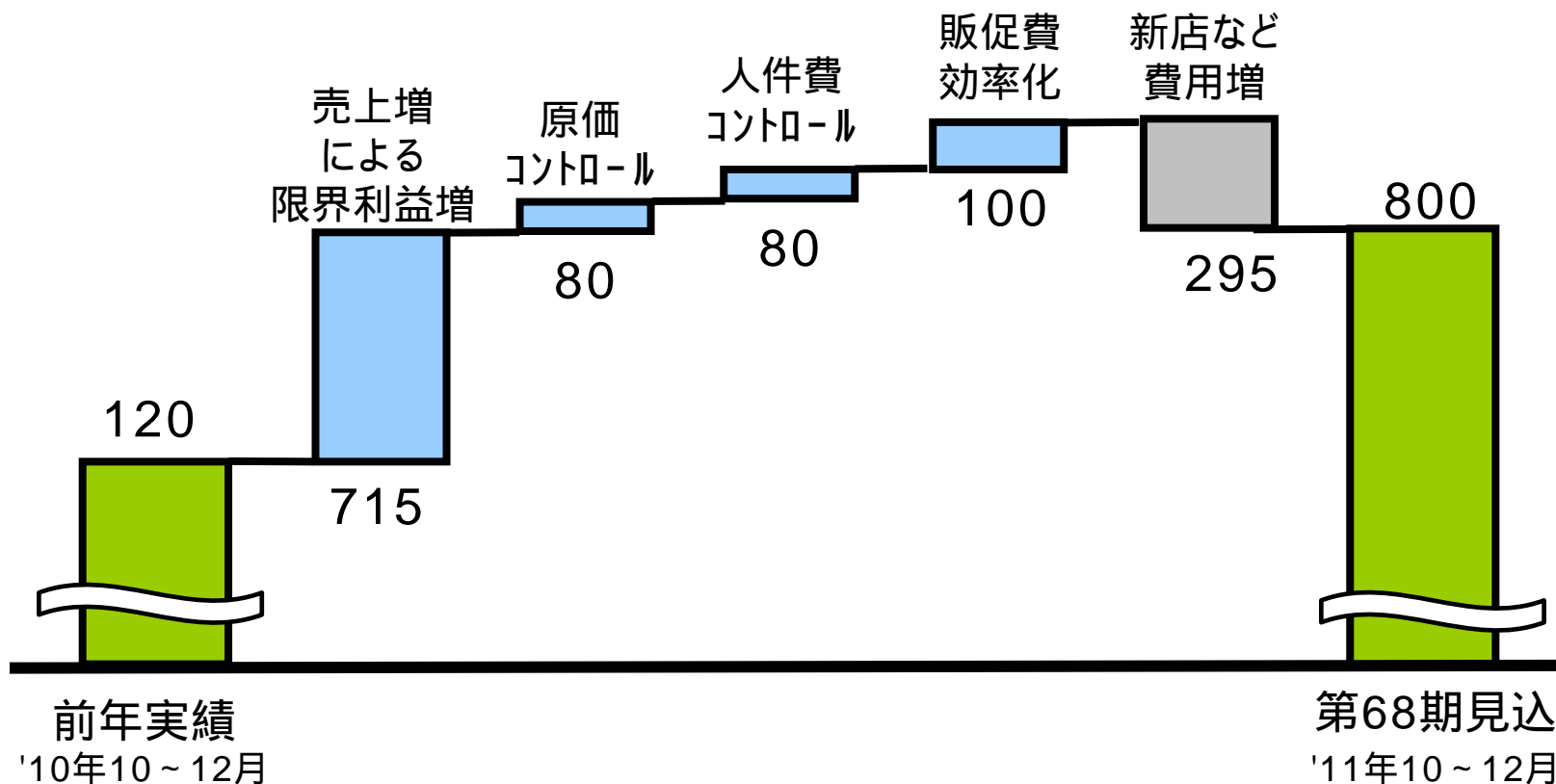
	前年見込 '11年1~12月	第69期見込 '12年1~12月	増減	前年比
売上高	32,624	34,500	1,876	105.8



経常利益 増減

(百万円)

	前年見込 '11年1～12月	第69期見込 '12年1～12月	増 減
経常利益	120	800	680



1 2011年9月期 業績報告

2 2012年12月期 業績の見通し

3 2012年12月期 主要活動

4 中期経営方針 (2012年～2015年)

お客様目線での活動の強化・継続

- 独自の「Uri」を明確にし、磨き上げ、お客様に伝える
- お客様の声・反応を集め、お客様満足度向上につなげる
- 品質保証、安心安全の追及

既存店パワーの最大化

- 全社販促展開によるダイナック品質の訴求
- 倶楽部ダイナックの魅力強化・戦略的拡大
- ブランド価値をあげるリリース・広報強化

新たな成長への挑戦

- 既存店舗の業態転換の積極展開
- 次の成長を支える新業態の出店・育成・確立
- コントラクト・受託ビジネス拡大への基盤づくり

経営基盤の強化

- 人時売上高を指標にしたシフト管理の徹底
- 原価管理の徹底によるロス削減
- アルバイトパートナー教育研修プログラムの強化

ダイナックお客様の声対応方針

- 一 . 私たちはお客様からのお問い合わせ・ご指摘に対し誠意を持って迅速かつ適切に対応してまいります。
- 一 . 私たちはお客様のご意見・ご要望に対し心から感謝し積極的に企業活動に反映してまいります。
- 一 . 私たちはお客様の声に常に耳を傾けることで商品・サービスの向上に活かしてまいります。

2011年10月1日制定

【全業態共通ホスター】

'11年12月 忘年会誘致



【業態横断イベント】

鍋奉行選手権
('11年11月~'12年2月)



【ネット告知】

facebook





	現状 ('11年7月時点)	12年予算
登録会員数	69 万人	85 万人
実働会員数	20 万人	30 万人
年間新規会員	11 万人	20 万人
年間会員売上	54 億円	64 億円
会員売上構成比	33 %	37 %

バーレストランの夜売上に占める構成比

売上獲得

- メルマガ配信倍増 (3.5 → 7万人)
- DM年3回、来店ポイント加算
- おせち等ご案内
- ゴルフ場リゾート特典

新規会員獲得

- 外商による入会活動、継続・拡大
- ホームページ案内強化

ロイヤルカスタマー化

- ロイヤルカード発行
- モバイル会員システム導入

倶楽部ダイナックによる『居酒屋顧客の会員化』へ

咲くら町田店

'11年10月15日



地域に根付いた食材を味わう
《地域密着型》地産地消の
和食居酒屋



咲くら池袋西口店

'11年11月8日



しっとり落ち着いた大人の
「和」の空間で
鮮魚料理を楽しむ居酒屋。



上記2店を含む11店の業態変更を予定
(2011年10月～2012年12月)

	(店)	
	2011年 10～12月	2012年 1～12月
期首店舗数	247	246
ブランド化を推進する戦略業態	0	4
個性を活かした特徴ある業態	0	3
ゴルフ・受託レストラン	0	6
出店	0	13
退店	1	6
期末店舗数	246	253
業態変更	3	8

1 2011年9月期 業績報告

2 2012年12月期 業績の見通し

3 2012年12月期 主要活動

4 中期経営方針 (2012年～2015年)

1 事業ポートフォリオを思い切って見直す

- 拡大余地が大きく低投資で投資効率の高い受託事業を成長エンジンにする
- 個性のある業態の開発・展開に資源を集中投下していく
- 不採算店舗は思いきって撤退、好立地店は個性のある業態へ転換する

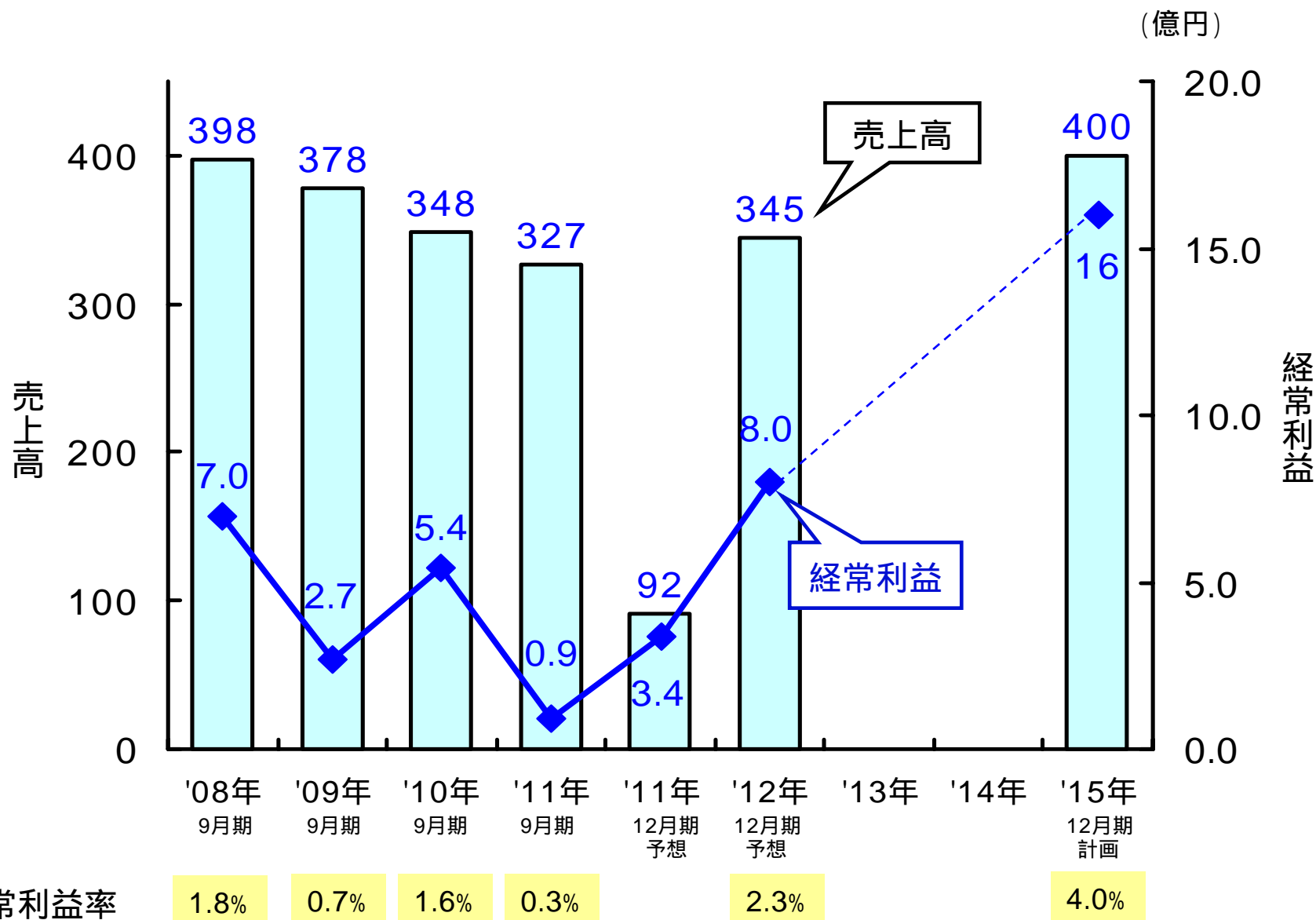
2 基盤となる機能・サービスを革新していく

- お客様の声・反応・評価を集め、商品・サービスをレベルアップする
(全社VOC活動の展開)
- 倶楽部ダイナックの魅力拡大、全社プロモーションの実施、広報強化などにより、ダイナックブランドの価値向上を図る
- 仕入から最終商品を提供するまでのプロセスを標準化・共通化することで、購買単価ダウンと仕入の適正化を進める

3 筋肉質な組織へ再構築する

- 『個店力主体』のマネジメントから『お客様に対する個の強さ + 全体最適』のマネジメントへ転換する
- 人時売上高を全店共通の管理指標にシフトコントロールを徹底する
- パートナー教育・育成基盤を強化し、パートナー化を推進する

中期目標



'11年12月期は、決算期変更の経過期間であり、3ヶ月の決算となります

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。
こうした記述は、将来の業績を保証するものでなく、リスクと不確実性を内包するものであります。

将来の業績は、経営環境等の変化に伴い、目標対比変化し得ることにご留意下さい。